

## ● 内視鏡外科技術認定医とは？

内視鏡外科手術は、低侵襲的であるなどの利点から、多数の領域の手術に応用されていますが、内視鏡下の手術野で、特殊な器具を用いて行う手術であり、高度な技術が要求されます。

※日本内視鏡外科学会では、「内視鏡手術に携わる医師の技術を高い基準にしたがって評価し、後進を指導するにたる所定の基準を満たした者を認定する」ために、日本内視鏡外科学会 技術認定制度を発足しました。

技術認定の資格を得るためには、外科専門医、消化器外科専門医の資格を持っていることを前提に、内視鏡外科の修練を行い、高難度の内視鏡外科手術の執刀実績が必要です。そのうえで、自らが行った腹腔鏡下手術の無編集ビデオ審査を受けて合格すると、技術認定医になることができます。

この審査は外科系の専門医資格の中では最も難易度が高く、消化器・一般外科領域での合格率は3割前後となっています。

(※：一般社団法人 日本内視鏡外科学会 「技術認定制度に関する規則」より一部引用。)

## ■ 鏡視下手術とは？

鏡視下手術は大きく2つに分けられます。まず1つは上部・下部消化管内視鏡（いわゆる胃カメラ、大腸カメラ）や気管支鏡、膀胱鏡・尿管鏡、子宮鏡などを用いて、病変を切除したり、症状を和らげるための処置をしたりする内視鏡治療です。口や肛門、尿道、子宮から内視鏡を挿入して治療を行います。

もう一つは内視鏡外科手術です。体(主に臍部)に10mmの孔をあけ、内視鏡を挿入して手術部位の様子をモニターで確認しながら、小さな孔(5~10mm)から入れた器具で手術を行う方法です。非常に高精度なスコープを通して体内を確認するため、顕微鏡をのぞきながら手術をしているともいえ、従来の開腹手術よりも出血量の少ない精緻な手術が可能です。メリットとして①手術の傷が小さい、②術後の痛みが軽減され、回復が早い、③入院期間が短く、日常生活への復帰が早いなどが挙げられます。

内視鏡外科手術に関しては全例「内視鏡外科技術認定医」が執刀(もしくは指導的助手)します。他院で年齢や合併症を理由に手術を断られたり、開腹手術を勧められた方も当センターに一度ご相談ください。



内視鏡



3D腹腔鏡